令和６年度　学校経営報告

府中市立府中第十中学校
校　長　芹　澤　敏　光

１　今年度の取組目標と自己評価

（１）教育活動への取組（概要）と自己評価

【学校運営】

〔取組目標〕

① 「教育目標」、「目指す学校像」、「目指す生徒像」、「生徒にとって」、「教職員にとって」、「保護者にとって」、「地域にとって」の達成を組織的に行う。

② 人材を育成する。

③ 地域の学校として、「ともに子供たちを育て、ともに地域をつくる」という理念に立ち、保護者・地域の方々との連携、協働を深める。

④ 学習指導、奉仕活動を通して生徒の自己肯定感、自己有用感を高める。

⑤教職員が意欲をもって職務に精励できる環境を整える。

〔自己評価〕

すべての教育活動を通して、努力と誠実さや正義を大切にすることができる生徒、常に素直で謙虚な姿勢を大切にする生徒を育てることをまず念頭においた。さらに自己の能力を最大限に高め、生涯に渡って向上し続けようとする生徒の育成に努めた。「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」の４つの視点を取り入れた教育活動を推進した。本校におけるあらゆる教育活動が、生徒が自らの可能性を伸ばす手段と位置付けた。教職員が意欲をもって職務に精励できる環境を整えるために、学校予算の適切・計画的な執行、教育資源の有効活用に努めた。教職員一人一人は、非常に誠実に職務と向き合い、生徒のことを第一に考え指導を行った。一部理解、協力が得にくいケースがあったが、粘り強く対処している。

学校経営においては、毎朝の主幹会議、経営支援部会と企画会議を毎週開催し、方針の周知徹底、業務の進行管理、情報の共有と協議を行い、組織的な学校運営に努めた。３名の主幹教諭は分掌内をしっかりと統率している。各種会議の効率化を図り、職員が生徒指導に費やす時間の確保が進んだ。職員のライフ・ワーク・バランスの推進に関しては、１か月あたりの時間外勤務が市の目標をクリアー出来ていないケースも月によっては見られるが、職員の全体的な意識は向上しており、行動も変わってきている。各種支援員等の活用をさらに進め、業務の精選、効率化をさらに進めていく。人材育成について、主幹教諭、主任教諭、教諭のライン機能を通して教員としての力量を高めた。

生徒の学力向上と心豊かな生徒の育成、人間的な成長を図ることは学校の責務である。さらに近年は、本校も青少対や地域文化センターなどとともに地域活動の拠点としての役割も大きくなっている。特に健全育成や防災においては期待が大きい。本校の学区域及びその周辺地域は、人と人とのつながりがとても強く、地域社会全体が穏やかで温か

い。そのため本校の方針や教育活動に非常に協力的で、ご理解・ご支援をいただくことができた。その思いに応えるためにも、また地域の安定と発展に貢献するためにも、地域とのつながりを大切にしていきたい。一方、教職員の負担感の増大につながらないようにしていく。地域の祭礼なども今年度は予定通り実施され、生徒たちも地域との連携を体験できた点はよかった。

日常的な職務における服務の意識や服務事故防止研修取り組む姿勢は全体的に良好である。服務規律の徹底のために、年間を通して全体・個別の指導のタイミングを逃さないように取り組んでいく。

【学習指導】

〔取組目標〕

授業について常に工夫と改善を行い、生徒同士の関わりを大切にし、主体的な学びを進める。生徒が「分かった」と思える授業、「力が付いた」と実感できる授業を推進する。

〔目標を達成するための方策〕

① 授業力の向上

・生徒が「分かった」と思える授業、「力が付いた」を実感できる授業を進める。
・自ら学び、自ら考える力を育成するための指導方法の工夫、改善。
・生徒が学習したことを自分の言葉で表現できるように学びを深めさせる。

② 生徒の学習意欲の向上

・生徒の主体的な学びを促し、「分かる喜び」を味わわせることで学習意欲を向上させる。
・学習習慣の定着を図る。
・ＩＣＴ機器の積極的な活用

［自己評価］

各教科で生徒同士の関わりを大切にする授業の展開を積極的に取り入れており、今後もさらに工夫をしていく。少人数指導では話し合い活動や生徒同士の教えあいを、考えの深まりや広がり、知識の定着のための手段として活用できた。また「なぜそのように考えるのか」ということを常に意識させることによって、学びを深めさせることができた。タブレット端末等 ICT 機器を積極的に活用し、課題や目的に応じた主体的な学習活動の充実に努めた。スキルの高い教員の能力を積極的に活用しながら、今後全体的な底上げを図っていく。

「分かる授業が行われている」に対する肯定的評価は、生徒は高いが、保護者は例年より低下している。「学力が向上していると思う」の肯定的評価が、特に保護者が大きく例年より低下している。一部の授業規律の影響が出ていると考える。

全般的に授業規律、落ち着いた学習環境の徹底は年間を通して維持できたが、肯定的評価が低い学年がある。教員も生徒も授業を大切にする意識は高く、課題の提出状況等も良好である。文科省の全国学力・学習状況調査の平均正答率は、国・数・とも全国を上

回っている。国は東京都も上回っているが、数は東京都を下回っている。一方で、学力の二極分化の傾向も心配される。それをカバーするために、学習支援員を活用した放課後学習教室を年間通して実施し、生徒の学力の下支えに継続的に取り組んでいる。

朝読書の指導を全校で進め、全校生徒の読書に対する意識を高く維持できた。生徒の文章の読解力の向上に寄与することができたと考える。生徒一人一人が表現力を向上させることにもつなげていきたい。

＜肯定的回答の割合＞

〔生徒・保護者アンケート〕	生徒	保護者
授業規律は守られている	７９％	８７％
分かる授業が行われている	９４％	７５％
学力が向上していると思う	７７％	６１％
習熟度別少人数指導やＴＴ指導は効果がある	８８％	８４％
ＩＣＴ機器の活用など積極的に授業の工夫改善に取んでいる	９２％	７９％
能力や努力は公平に評価されている	９５％	８４％

【健全育成】

〔取組目標〕

全教育活動を通じて学校や社会のルールを順守する指導を徹底するとともに、人権教育、心の教育及びいのちの教育を推進し、望ましい規範意識のもと、自他を尊重し、思いやりと豊かな人間性、社会性に満ちた豊かな心を育成する。

〔目標を達成するための方策〕

① 互いに認め、支えあい、高めあう「かけがえのなない仲間づくり」

② 心の教育

・いじめの根絶

・教育相談、道徳科の指導の充実

・ＳＣやＳＳＷの活用、関係機関との連携

③ 各フェーズに応じた不登校対応

④ 自己肯定感、自己有用感、共存共栄の意識を高める学級指導

⑤ 地域社会への貢献、地域社会との連携意識の涵養

⑥ 防災教育、キャリア教育の充実

〔自己評価〕

全般的に非常に落ち着いた学校生活が維持できている。生徒一人一人が、「明るいあいさつ　きれいな学校　時間を守る」のスローガンのもと、自覚をもった行動をしていることはもちろんであるが、保護者や地域の協力・支援も非常に大きく寄与していると感じている。

「上級生の姿を見て下級生が育つ」という本校の伝統を生徒たちに体験させられ

る機会が増え、下級生にもいい影響を与えている。今後も教職員、生徒共々この伝統を常に意識しながら日々の指導を行っていく。学校生活アンケート、面談など様々な資料の活用や、日常的な教員と生徒との関わりも良好であり、それらが生徒の学校生活の充実につながっていると考える。

命の大切さや生徒の心の安定を図る指導も、外部講師の活用などを取り入れながら繰り返し行っている。生徒の心の支援では、担任を軸としてスクールカウンセラーの活用を組織的・効果的に進めた。しかし心配な生徒で外部とのつながりが弱い生徒もいるので、今後家庭との連携を深めながら、慎重に、ていねいに対応を進めていく。

特別な支援が必要な生徒への対応も、頻度、内容的な重さが増大しており、それに伴い教職員が費やすエネルギーも増大している。校内委員会を毎週開催し、個に応じた対応を検討し有効に機能している。年間通して支援員を活用し対応を手厚くしているが、まだ人手が必要な状況である。今後も生徒一人一人に対してカウンセリングマインドを重視し、共感的理解を深め、保護者とも連携しながら愛情をもって対応、指導していく。

不登校対策は市の喫緊の課題であるが、不登校生徒出現率は昨年度の 7.6%から今年度 5.7%に減少している。小学校から不登校が継続していて、対応にかなり苦慮しているケースもあり、学校復帰になかなか繋がっていかないのが現状である。今後も個々のケースのアセスメントを行い、要因を的確に見極めながら関係機関とも連携をとり対応を進めていく。新たな不登校が出ないように、また、まずは一人の登校復帰を目指して粘り強く対応していく。サポートルームへは定期的に登校できている生徒もおり、来年度、活用をさらに効果的に進めていきたい。来年度は不登校巡回教員も導入されるので、初年度は手探りの状況もあるかもしれないが、有効に活用していく。

いじめの問題も少数ながらあった。引き続きアンテナを高くし、解決後のケアや見守りを徹底し、生徒の心を育てる指導をあらゆる機会を通して進めていく。学校いじめ基本方針も再確認し、毅然とした態度で指導していく。

多様性を尊重する意識は、生徒や職員ともに向上している。人権感覚とともに今後も重視していく。

＜肯定的回答の割合＞

〔生徒・保護者アンケート〕	生徒	保護者
「明るいあいさつ」をしている	８８％	８７％
「きれいな学校」は維持されている	９４％	８７％
時間を守って行る	９３％	８６％
学校生活は楽しい	９２％	９３％
生徒会・学級活動、学校行事に積極的に取り組んでいる	９１％	８９％
学級・学校の活動はやりがいがある	９０％	８２％
部活動に積極的に参加している	８５％	８９％

【進路指導】
〔取組目標〕
意図的・計画的な指導によって、生徒の主体的な進路選択を推進する。
〔目標を達成するための方策〕
①主体的な進路選択
・各学年の発達段階に応じた進路指導を展開し、夢をもちその実現を強く願い、そのための努力を続ける姿勢を育む。
・「生き方」の指導の充実を図り、人としてどう生きるかを考えさせる。
②意図的・計画的な指導
・自己理解を深めさせ、望ましい学習観、勤労観、職業観を養う。
・全体指導、個別指導の充実。
〔自己評価〕
今年度は職場体験を予定通り実施した。各学年とも、生徒が自らの生き方を考え主体的な進路選択につなげることができるように指導を進めた。
夢をもち、それを強く願い、その実現に向けた努力を誠実に続けることができる心を育てる指導を、学級・学年指導、朝礼講話、各種通信を通して進めた。

【特別活動・その他】
〔取組目標〕
自己肯定感、自己有用感の育成、自主的・実践的態度の育成
・望ましい集団生活の場を工夫し、生徒の自治活動を充実させる。
・奉仕活動の機会や地域行事への参加の場を多く設定する。
・健康の増進、体力の向上
・学校行事、部活動を充実させる。
・安全意識向上、危機回避能力の育成
〔自己評価〕
特別活動の指導における生徒の自己肯定感・自己有用感の育成は自治活動や奉仕活動、学校行事等によって高めることができるが、可能な範囲で生徒・教員とも調整・工夫を繰り返し、指導を行った。
学校行事、学年行事を生徒たちが経験していく際に見られた変容は、中学校における行事のもつ重要性を改めて認識させるものであった。１年生のふれあい自然教室、３年生の修学旅行も順調に実施できた。今年度は熱中症対策として運動会を午前中の半日開催とした。来年度は市の６つの熱中症対策の工夫を取り入れながら、夏季の教育活動を進めていく。3 月の音楽祭実施は今年で最終となり、来年度は秋開催で、位置づけを変更しながら生徒の成長につなげていきたい。
毎朝のあいさつ運動、健康チェック、各種当番活動、生徒の委員会等による継続的な活動は、可能な範囲で堅調に維持できている。当たり前のことを当たり前に取り組むことによって、生徒の自己肯定感、自己有用感の育成に地道に取り組んだ。
「地域貢献プロジェクトチーム」の活動は可能な範囲で実施し、校内・地域における認知度を高めることができ、地域の福祉施設からも非常に感謝され、生徒のや

りがいにつなげることができた。

部活動はこれまでのものを存続することができた。顧問教員の育児や専門外の部を受け持っているなどの様々な事情はあるが、外部の部活動指導員（顧問指導員）技術指導員を活用しながら活動の充実に努めた。大会や対外試合などでも、多くの生徒が達成感、成就感を味わうことが出来た。中学校生活の中で、生徒にとって部活動がやはりかなりのウエイトを占めていることを改めて実感した。部活動の地域移行・連携の取組、進展が気になるところであるが、部活動の意義は大切にしていきたい。

避難訓練、安全指導、セーフティ教室、薬物乱用防止教室、地域防災スクール等は計画通り実施し、生徒の意識、対応力の向上を図ることができた。

＜肯定的回答の割合＞

〔生徒・保護者アンケート〕	生徒	保護者
地域の行事や地域支援に関心を持っている	７１％	４５％
本校は健康・安全・防災教育に取り組んでいる	９３％	７３％
いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	９３％	８９％
生徒本人と教員の関係は良好である	９４％	９７％
ＰＴＡと学校の連携はとれている	－	８９％